

キャリアパスについての議論に向けて

日本学術会議・天文学宇宙物理学分科会資料
平成29年5月25日 23期・第8回

幹事

第23期第1回分科会（14年12月22日）議事録より抜粋

4. 「22期からの引き継ぎ事項／23期の活動方針」を併せて 報告・議論

（オ）大学院生・若手研究者の教育、育成

これまで具体的取り組みが十分でなく、今期取り組むべき重要な課題であることが紹介された。日本天文学会でのキャリアパス支援委員会の新たな創設と、最初の活動として、取り組むべき課題の洗い出しを目指していることが天文学会理事を兼任する委員から紹介された。一方、アカデミックキャリアパスとしての受け皿がないまま大学院重点化が行われたことへの懸念が指摘され、また、アカデミック以外のキャリアを選ぶ場合も含め、より不安少なく若手が進路を選ぶための支援が必要との意見も出された。学術会議分科会としての具体的な取り組みは今期の課題のひとつであることを共通認識とした。

キャリアパス問題の異なる視点

■ 大学院生・若手のキャリアパス

- ・ 大学院重点化にともなう大学院生・ポスドクの増加
- ・ アカデミックポスト数の変遷（要・定量化）
- ・ 企業、公的機関を含む様々なキャリアパスの認識
- ・ 新しいキャリアパス（天文ベンチャーなど）

■ アカデミック・キャリアにおける問題点

- ・ ポスドク数と任期無しポスト数のアンバランス
- ・ 任期付き雇用の出口問題
- ・ 流動性、定年延長の影響
- ・ 年齢分布バランス
- ・ ジェンダー・バランスの改善
- ・ 日本の天文宇宙物理アカデミックポストの国際化（インバウンド、アウトバウンド）

異なる角度からの取り組み

- 日本天文学会 キャリア支援委員会
 - ・ 若手のキャリアパスに焦点 実態調査と意識調査
<http://astro-wakate.org/www/wp-content/uploads/2015/08/アンケート結果と問題提起について.pdf> (2015年7月)
 - ・ 企業でのキャリアパスの可能性の認知の拡大

- 天文・天体物理若手の会 (上のアンケートに協力)

- 天文教育フォーラム (2015年9月9日)
「天文学会員のためのキャリア支援を考える」

- 「宇宙を学べる大学」
沢武文 (愛知教育大学・理科教育講座・天文学研究室)
 - ・ (国立天文台、宇宙研は含まれないが)
大学の教員数の詳しいまとめ、
年齢分布、任期有無などの把握の出発点として有用

- 学術会議シンポジウム (3月11日) における
キャリアパスの問題提起

天文学・宇宙物理学分科会としての取り組み

■ 当分科会として取り組むキャリアパス問題の論点の明確化と共有 (本日の議論)

- ・ アカデミックポストについての課題を明確化する
(若手については2015年の日本天文学会キャリア支援委員会、
天文・天体物理若手の会の実態調査、意識調査があるが、
スタッフについては、実態調査・意識調査が不足している)
- ・ 任期制ポストの増加、出口問題、高年齢でのキャリア不安定の課題
- ・ 実態調査・意識調査が必要

■ 今後の取り組み

- ・ 第23期分科会としての取り組み (提案)
「スタッフのキャリアパス問題についての実態調査・意識調査」
タスクチームを設置：大学・共同利用機関のスタッフポストの実態調査
- ・ 来期に向けての提言
- ・ 実効性のある解決策の提示、あるいは問題の提言ができるか？